

第182回 仏教公開講座

年間テーマ

生きるって ということ

サブテーマ (教区テーマ)

まなこ
『眼をひらく』
こころ
『心をひらく』

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

期 日 2019年8月20日(火) 午後6時半～8時半

講 師 上野 千鶴子(うえの ちずこ)氏 (社会学者)

講 題 在宅ひとり死©ChizukoUeno のススメ

講師紹介 富山県生まれ。社会学者・東京大学名誉教授・認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。

1994年『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)でサントリー学芸賞受賞。

2011年度、「朝日賞」受賞。受賞理由「女性学・フェミニズムとケア問題の研究と実践」

著 書 『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』(法研)等多数。
最新刊に『女ぎらい ニッポンのミソジニー』(朝日新聞出版・文庫)

先生からのメッセージ

高齢者の独居率はしだいに増えています。泣いてもわめいても子どもは帰ってこない。安心してひとりで老い、介護を受け、そしてひとりで死んでいく・・・そのためには何が必要か、を一緒に考えたいと思います。

MEMO

次回 第183回 仏教公開講座 ご案内

期 日	2019年9月20日（金）午後6時半～8時半
講 師	鍋島 直樹（なべしま なおき）氏 （龍谷大学教授）
講師紹介	兵庫県出身、龍谷大学文学部真宗学科教授、龍谷大学大学院実践真宗学研究科長、臨床宗教師研修主任、日本医師会生命倫理想談会委員、浄土真宗僧侶
著 書	『人生に絶望なし 中村久子女史と歎異抄』方丈堂出版、1944 円。 『死別の悲しみと生きる』本願寺出版社、108 円。 『アジャセ王の救い 王舎城悲劇の深層』方丈堂出版、1749 円
講 題	「親鸞聖人における愛別離苦への姿勢」
メッセージ	大切な人との別れは、身を切られるようにつらいことです。時を経ても悲しみはますます深まるばかりで、どうかあの時まで時間が戻ってほしいと心の中で叫ぶこともしばしばです。「愛別離苦はあらゆる苦しみの根本である。愛が深ければ深いほど、より一層憂いも深くなる」と『涅槃経』に説かれています。私たちは別れの後で、はじめて愛の尊さに気づきます。それでは、死別による悲しみを私たちはどのように受けとめたらよいのでしょうか。親鸞聖人のみ教えを共に学びたいと思います